

# 伝え合い、深め合う授業づくり（4年次） ～成長が実感できる「振り返り」を通して～

萩市立大井小中学校

## 1 はじめに

本校では、令和2年度から令和3年度の2年間、児童生徒の「聞き合う力と伝え合う力の向上」を目指して校内研修を行ってきた。昨年度は、「他者意識をもち、互いにかかわり合いながら思いを伝え合う学校」を目指し、「伝える力・説明する力・反応する力」を児童生徒に身に付けさせたい力とし、校内研修、日々の授業づくりに取り組んだ。これらの取組の成果として、自分の考えを相手に伝えようという意欲は高まった。その成長を子供たち自身も自覚している。

今年度は、さらにその成長をより確かな力にしていきたい。特に、目的や条件に応じて考えを適切に表現する表現力・思考力と、相手が伝えようとしていることや文章に書いてあることを正しく受け止めたり読み取ったりすることなどの読解力の向上を目指したい。

その際、自分ができたことや分かったことは何なのか、どんな学び方ができたかなどを見つめ、できるだけ具体的に学習のポイントや修正点を発見し、自覚できる場を設けることが重要である。さらに、自分の伸びだけでなく、自分の課題（苦手なこと、もう少し頑張りたいこと）も自覚し、今後それをどのように伸ばしていくかを自分で考えていくことも必要である。これらを繰り返していくことで学びが確かなものになり、自分の成長を楽しみながら、自らを伸ばしていく力（自己調整力）を身に付けた児童生徒が育つであろう。成長が実感できる「振り返り」を進めていくことで、生きて働く力を育てていきたい。

## 2 重点的に取り組む事項

- ①力を付けることにつながる「振り返り」の場と視点の設定
  - ・自分が何を理解したのか、どのように活動したのかを整理する場
  - ・自分の考えの変容、深まり（補足・修正・強化）を自覚させる手立て  
（ねらい—自分の行動や考え方—結果 → 新しい情報の発見 → 自覚へ）
- ②「振り返り」の記述の指導と変容の価値付け（学校行事、委員会活動など）

## 3 研究の方法

- ① 授業研究を通して、主題解明について協議する。
  - ・授業研究会（9月、11月）を実施する。
- ② 公開授業（互見授業）から学ぶ機会を設ける。
  - ・一人1授業実践
  - ・授業参観シートの活用による授業評価を取り入れる。
- ③ アンケートや行事などの振り返りプリントを活用する。
  - ・主題に関わるアンケートを実施し、指導に生かす。
  - ・行事や活動のねらいを踏まえて目標をもたせ、その振り返りからできるようになったことや今後生かすことを見付けさせる。
- ④ 各種学力テストの分析（2回の検証改善サイクル）からの授業改善、共通実践を行う。
  - ・全国学力・学習状況調査の分析（8月7日）

- ・学力定着状況確認問題の分析（1月24日）
- ⑤他校や文献から理論や実践を学ぶ機会を設ける。
- ⑥ICT活用に関する研修を行う。
  - ・教職員の技能の向上を図る。（ロイロノート school 等の使い方など）
  - ・効果的な授業での活用事例を交流する。

#### 4 研究の取組について

- ・小学部と中学部で「振り返りの視点」を共通にし、授業では常に児童生徒が見える場所に掲示、もしくは板書の一部として使い、意識化を図った。また、学習におけるめあて、学習の見通しを持たせることで、主体的な学びだけでなく、児童生徒が自分で課題を解決していこうとする態度に結び付けた。
- ・児童生徒が自分のノートに振り返りを残すだけでなく、ロイロノート school に振り返りを蓄積させる取り組みも行い、自分の学び、学び方を振り返りながら学習の振り返りを記述できるようにした。また、他校との遠隔授業でもZOOMと合わせてロイロノート school でつなぎ、お互いの振り返りを共有、比較しながら、自分の学びを見つめる場面を設けた。
- ・既習事項や他教科と関わりがある内容、児童生徒の経験を結び付け、関連付けながら学習を進めることができるような支援を行った。その際、ICTを活用し、既習内容のノートや画像を示すことで、児童生徒が気付き、考えられるようにした。



#### 5 おわりに

児童生徒が何を学び、どんな力が身に付いたのかを実感できる、自分の学び方について振り返ることで、学びに向かう力、学力向上に結び付くことが期待できる。これらのことは、様々な研修会や教育委員会指導主事による指導でも毎回耳にする内容である。実際、本校で取り組んできた内容は、その流れにあると考える。それでは、実際に児童生徒が自分の学び、学び方を振り返るためにどのような手立てが有効か、今年度の研究実践を積む中で具体的に見えてきたと思う。



振り返りの視点を明確にして、児童生徒が意識して日々の学習の振り返りを積み重ねることを全校で統一実践してきた。その中で、互見授業や授業研究において児童生徒の発達段階に応じた振り返り内容を共有し、9年間を見通した指導の在り方を全員で考えることができた。本年度の研究を通して得られた成果をもとに、次年度以降も継続した取組を行うことで、児童生徒が自分の成長を実感できる「振り返り」を充実させていくものと期待している。